

中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策の
進め方に関する研究

平成 21 年度 研究報告書
(研究 3 年目:最終年度)

財団法人 産業医学振興財団

平成 22(2010)年 3 月

I 研究の概要

1. 研究目的

平成 19 年度（1 年目）の本研究結果をみると、中小規模事業場、特に 50 人未満の事業場では、殆んど組織的なメンタルヘルス対策は行われていないのが実情であり、対策にかけられる費用も活動を行っているとは回答した 113 事業場の約半数が 0 円と回答し、5～30 万円と回答した事業場は約 20%であった。対策を行わなかった理由は、「必要事例がなかった」が 70%、「やり方がわからない」が 40%で、そのほか人手、時間、資金不足から、取り組みができていない実情が明らかになった。積極的取り組みを促すための方策として、「困ったときすぐに相談できる窓口」「低コストの取り組み」「順序立てて対策を行うためのマニュアル」「短期間で効果のある対策」などが挙げられた。

このような調査結果を基に、平成 20 年度（2 年目）は中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策を促進するために、1）コストがかからず、自由に使える教育資料の開発やメンタルヘルス対策を行うためのシステム作りのための解説書（事業場外資源一覧を含む）など 5 種類のツールやマニュアルの作成、2）地域産業保健センターを中心としたメンタルヘルス対策支援を促進するために、各地域産業保健センターが使用するメンタルヘルス支援のための標準的なマニュアル、教育研修用資材など 4 種類のツールやマニュアルの開発を行なった。

平成 21 年度（最終年度）は、本研究で開発した 9 種類のツールやマニュアル類を更に改良したものを実際に産業現場で使用できるものは試用してもらい、地域産業保健センターの活動を支えているコーディネーターや産業保健担当理事（医師）には利用者の立場から内容の検討を依頼し、全てのツールやマニュアル類の内容の分かりやすさ、分量、実際の有用性などに関する調査を依頼し、その評価結果や意見（自由記述）をもとに、より完成度の高いツール、マニュアル類を作成する。

2. 研究計画全体の概要

1) 研究テーマ

次の 2 つの研究テーマを基に、3 カ年計画で中小事業場におけるメンタルヘルス対策を進める上で必要なツールとマニュアルの開発と有用性の評価を行い、より完成度のものを作る。

研究テーマ 1:

「中小規模事業場におけるメンタルヘルス(MH)対策や支援のあり方に関する調査研究と対策に必要なツール、マニュアルの開発」

研究テーマ 2:

「地域産業保健センターを中心とした中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策支援の支援方策の研究」

2) 研究計画 (図 1.)

3年計画の概要を図1に示す。1年目に研究テーマ1、2に関する実態調査、先行研究の分析等を行い、2年目は、研究テーマ1、2を合わせて6つのワーキンググループを立ち上げ、9種のマニュアル類を作成した。3年目はツールやマニュアル類を産業現場や事業場外資源で使ってもらい、その結果についての評価をもとに改良を加え、完成度を高める。

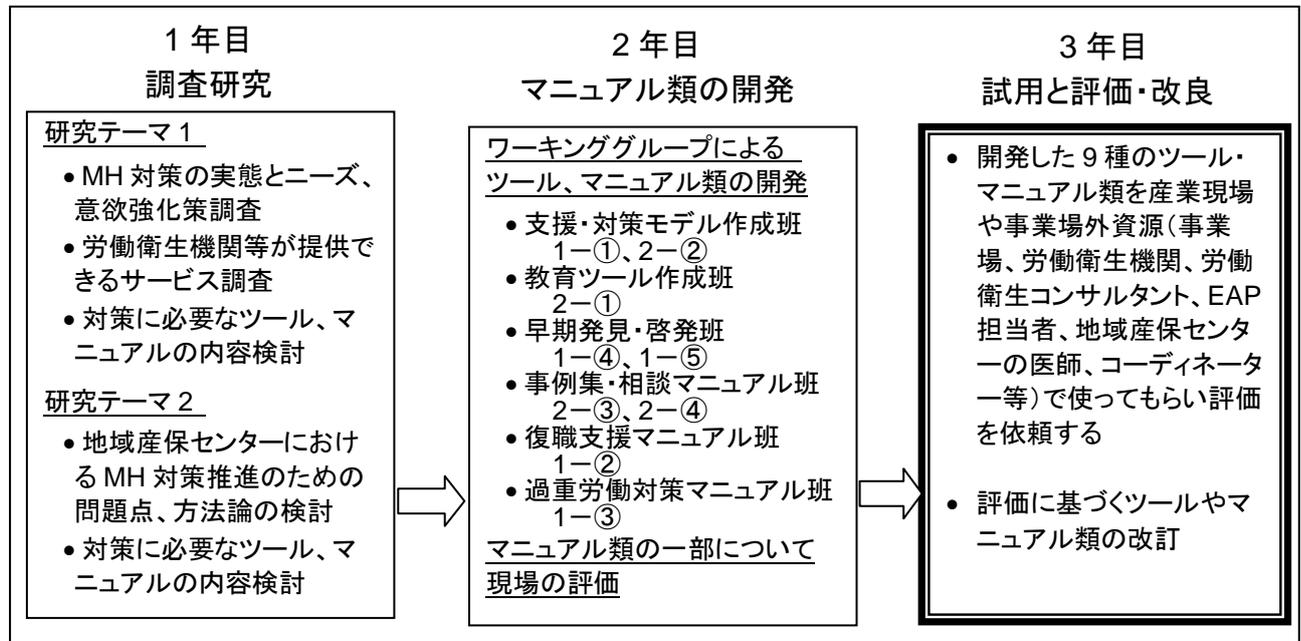


図1. 研究計画(テーマ1: 中小規模事業におけるメンタルヘルス(MH)対策や支援のあり方に関する調査研究と対策に必要なツール、マニュアルの開発
テーマ2: 地域産業保健センターを中心とした中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策の支援方策の研究)

3) 研究メンバー構成(3年目)

代表研究者: 永田頌史 (産業医科大学 産業生態科学研究所 精神保健学研究室)

研究事務局: 廣 尚典、真船浩介、尾久征三、伊藤裕康、轟美和子、田口要人、吉田政樹

【研究テーマ1】 中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策や支援のあり方に関する調査研究と対策に必要なツール、マニュアルの開発

黒木弘明 (財団法人 西日本産業衛生会) (1,2年目は南 牧子)

森田哲也 (リコー株式会社)、

森 朋子 (財団法人 福岡労働衛生研究所)、

長見まき子 (関西福祉科学大学健康福祉学部)

森口次郎 (財団法人 京都工場保健会)

日野義之 (ひの労働衛生コンサルタント事務所)

茅嶋康太郎 (産業医科大学 産業医実務研修センター)

廣 尚典、真船浩介、尾久征三、伊藤裕康、轟美和子、田口要人、吉田政樹

(産業医科大学 産業生態科学研究所 精神保健学研究室)

【研究テーマ 2】 地域産業保健センターを中心とした中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策の支援方策の研究

織田 進 (福岡産業保健推進センター)

三原宏之、渡辺 岑 (福岡中央地域産業保健センター)

太田守行 (直方鞍手地域産業保健センター)

井上 温 (神奈川県横浜北地域産業保健センター)

茅嶋康太郎 (産業医科大学 産業医実務研修センター)

廣 尚典、真船浩介、尾久征三、伊藤裕康、轟美和子、田口要人、吉田政樹
(産業医科大学 産業生態科学研究所 精神保健学研究室)

II. ツール、マニュアル類の使い方について

中小規模事業場のメンタルヘルス対策を推進するために、これまでに行ってきた対策の実態や産業現場のニーズに関する調査結果をもとに、9種類のツール・マニュアル類を作成したが、その使い方に関して簡単な解説が必要と思われる。大略が分かるように以下のような図表を作成した。

ツール、マニュアル類を使う側の中小規模事業場の担当者と地域産業保健センターの担当者に分け、前者では具体的な体制作りのために使うマニュアル類と、教育・研修用のツール、マニュアル類に分け、それぞれの目的に合ったものを選べるように表示した。地域産業保健センターの担当者が使うツール、マニュアル類はコーディネーターや担当医師が情報提供、支援活動用に使うものと、コーディネーターが使う相談対応のためのマニュアルに分けて表示した。

